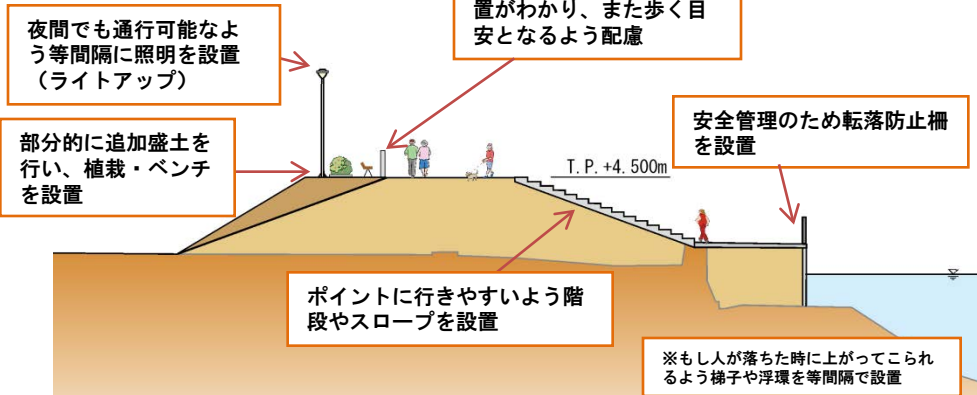


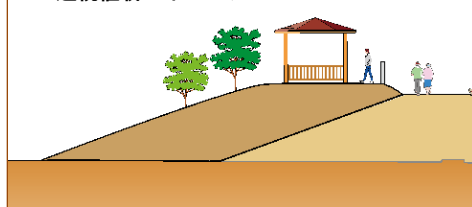
ルート③『旧北上川左岸下流』

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、新たな産業が集う
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルートイメージ



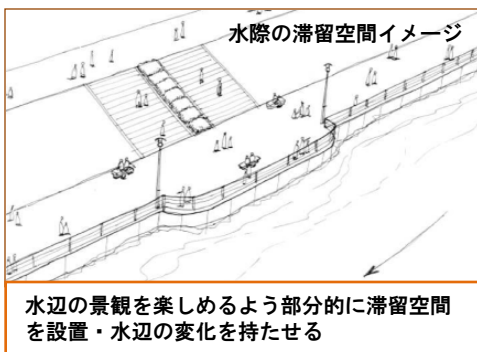
連続植栽のイメージ



- ・背後の土地を活用して桜堤を整備したり、連続する植栽、並木道等により人々の集える空間と景観に配慮
- ・連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫



水際の滞留空間利用イメージ



水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置・水辺の変化を持たせる

※堤防はイメージであり確定したものではありません。

利 活 用 方 策

- 復興計画で産業集積地区と居住地域として予定されていることから、職・住合わせた住民の憩いの場として利用していく。
- 湊地区は、石巻湊としての歴史や昭和に漁港があった時代の賑わい、さらに造船業が営まれていたことなどから、石巻市の産業を学ぶエリアとして活用も考えられる。(案内板の整備により当時の産業の歴史を紹介していく)



▲ 案内看板やサインのイメージ

- 連続した植栽空間(並木道等)を設け、人々の集いと憩いのプロムナードを創出。屋台や出店など集客空間としても年間を通して活用。



▲ 連続した植栽空間のイメージ



- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会単位(沿川企業含む)等で水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進する。
- プロムナードの移動を容易にするため、安全を確保してサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)。

各ルート・拠点の見直し案

ルート⑥（新規ルート）の設定 『旧北上川左岸上流』（案）



ルート⑥（新規ルート）は、旧北上川の水辺と田園風景を楽しむルートとして活用できる。

- 堤防や水辺に近づきやすくするための坂路、階段等の工夫
- 兼用道路となる堤防天端の人の動線や安全性の確保

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード
「スポーツと学びのルート」

ルートの見直し(案)

- ・対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散歩できるプロムナード（心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散歩、サイクリングを楽しむ）
- ・石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
- ・サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫（距離標や案内板）
- ・一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫（釣りやボート等）

なお、ルート⑥は下記の点に留意する。

- ・堤防と背後の道路が接続する箇所には階段工を設置し、主要動線との接続点にはスロープを整備する。
- ・石巻専修大学や背後の総合運動公園があることから、漕艇・カヌー利用や、マラソン・ジョギング等の利用に配慮する。
- ・プロムナードの移動を容易にするため、安全を確保してサイクリングロードとしても活用する。
- ・水際部には転落防止柵を設置し、万が一落ちた場合でも上れるよう梯子や浮環等を等間隔で設置する。また、人が多く利用する階段には手すりを設ける。